

東日本大震災発生時 テレビは何を伝えたか

NHK 放送文化研究所 メディア研究部 番組研究グループ
「放送研究と調査」2011年5・6・12月号より

テレビが何を伝えたのか、その記録を速報 主にNHK 総合、そして在京民放キー局を対象に

震災報道時刻表 その内容 NHKを主として

3月11日

【14時】

・東日本大震災発生速報・各局報道開始

14:45 国会中継ライブ

14:46 アラーム音と同時に緊急地震速報・地震発生を音声告知「宮城県沖で強い地震」
(背景画面では国会の議論がそれまでどおり続けられ、大地震の緊張感はまだ伝わってこない)
(ほどなく会議場も揺れを感じて騒然となり.....)

14:47 テロップが「地震速報」に変わる。音声で地震の揺れへの警戒を呼びかけ

14:48 ニューススタジオに切り替わり、地震・津波情報の報道体制に入る

14:49 中継画面＝各地の揺れ(仙台青葉区、宮城石巻、都内渋谷) 震度読み上げ

14:50 (画面に地図) 津波警報＝各地の第一波到達時間・予想高さ

14:51 津波警報の出ている地域を告知、警戒を呼びかけ

14:52 <中継> 宮城県気仙沼港の映像

14:53 警報対象地域の人に避難の呼びかけなどを繰り返す

【15時】

・津波第一波観測情報・津波映像放送開始

15:00 中継> 岩手・石巻

中継> 都内・台場の火事

15:10 NHK 仙台 仙台市、気仙沼の状況を紹介

大津波警報の追加

中継> 釜石(津波が岸壁を越えていく光景、流されるトラック)

中継> 大船渡(波に浮かぶ多数の車の映像)

日本テレビ(ミヤギテレビ) 県内地震津波情報(<中継> 女川原発、自動停止との情報)

15:20 中継> 小名浜(岸壁を越え港内に流れ込む波)

中継> 気仙沼(波に覆われた港内、立ち上る白煙)

15:30 中継> 銚子(波に流され岸壁に激突する船)

(画面に地図) 津波警報の追加情報

へり中継> 都内(九段会館の天井崩落の情報)

テレビ東京 福島第一原発自動停止(コメント)

15:40 へり中継> 新宿(駅周辺の人の様子)

へり中継> 仙台市内(火災がおきているマンションの映像)

中継> 石巻(海水に浸かった町、流される漁船)

15:50 V: 茨城空港の天井パネルが崩落する映像

災害担当記者が、地震情報のまとめ

中継> 八戸(岸壁を越えて港内に海水が流れ込む映像)

へり中継> 名取川(河口を逆流する津波が田畑・家屋を飲み込む)

【16時】

- ・孤立者・死亡者・東北全域停電・自治体からの避難指示情報の第一報が入る
- ・1Fで非常用ディーゼル発電機の一部が使えなくなり、東電が国に「10条通報」を行ったと報道

16:00 ヘリ中継> 仙台市名取川（住宅地を押し流す泥流、立ち上る火災）
 中継> 気象庁・記者会見
 ゲスト> 東大地震研究所・都司准教授～映像から推察される津波の危険性、避難すべき場所の説明

16:10 中継> 千葉（燃える製油所のタンク）
 ヘリ中継> 仙台 海岸線へと押し寄せる津波
 中継> 大洗町（岸壁に打ち上げられた船）
 ヘリ中継> 仙台空港（水と土砂に埋まった空港）
 フジテレビ 「青森・福島・茨城の原発、外観上被害なし」

16:20 ヘリ中継> 仙台空港（ターミナルビルの屋上に避難した人たち）
 中継> 千葉（炎上するタンク）
 日本テレビ 福島第一・第二原発で自動停止との情報

16:30 中継> 福島第一原発（余震で揺れる映像）
 南相馬、気仙沼からの被害報告入る
 ヘリ中継> 相馬港（海水に浸かった住宅、燃える家屋）
 テレビ朝日（福島放送） 「福島第二原発、火災があったが収束」

16:40 東北各自治体が、住民に避難指示勧告を発令

16:47 速報 原子力安全・保安院の「10条通報」（1Fの冷却に使う非常用ディーゼル発電機が故障）
 （1Fにおける「全交流電源喪失」という最初の異常事態が国に伝えられた（10条通報）のは、地震発生から約1時間後の15:42だった。それをNHKが「冷却用の非常用ディーゼル発電機の一部が使えなくなった」という表現で伝えたのは、さらに1時間後の16:47である。これが、テレビでは最も早い一報だった）
 東電 原発の10条通報について解説

16:57 中継> 首相会見

【17時】

- ・気象庁、マグニチュード8.4から8.8に修正。「東北地方太平洋沖地震」と命名
- ・東電が17:00に原子力安全保安院に緊急事態を知らせる通報を行ったが外部への影響はないと報道

【18時】

- ・都市部自治体など帰宅困難者対策依頼情報
- ・首都圏の帰宅困難者の報道開始
- ・テレビ朝日 「宮城県女川町が壊滅に近い被害」と報道

【19時】

- ・枝野官房長官会見内で「原子力緊急事態宣言」を行ったことを発表
- 19:40 枝野官房長官の会見で「原子力緊急事態宣言」が発せられたことを機に、今回の災害が原発事故を伴う深刻な「複合災害」であることが伝えられ始め、その後のテレビ報道の中で次第に比重を高めることになっていく

【20時】

- ・大船渡市、八戸市など東北地域の避難所から中継開始
- ・NHKで「壊滅的被害」という表現が使われ始める

【21時】

- ・枝野官房長官会見内で1Fの半径3km以内の住民は避難、3～10kmは屋内退避との指示を明らかにする
- ・NHKがUstreamとニコニコ動画で総合テレビの同時再送信を開始

【22時】

- ・仙台市若林区荒浜で200人から300人の遺体が発見されているとの情報が入る

- ・自衛隊ヘリによる孤立者救出開始の第一報

【23 時】

- ・宮城県気仙沼市で大規模火災発生 of 第一報。陸上自衛隊の撮影した上空からの映像が入る
- ・フジテレビで 22:30 頃の仙台市若林区荒浜の映像放送

3月12日

【0 時】

- ・福島県白河市で土砂崩れが発生し中継が開始

【1 時】

- ・福島県南相馬市で 1,800 世帯が壊滅状態との情報が入る

【2 時】

・速報テロップ> 1F 1 号機格納容器内の圧力上昇とそれを抑制するための排気 (ベント) を検討中。放出される放射性物質は微量で安全だとする政府や東電の見解も繰り返し報道。

(夜間は科学・文化部の山崎淑行記者、早朝 5 時台からは東大大学院の関村直人教授も加わって技術面の解説がなされた。関村教授は「原子炉の中にある燃料は十分に水の中に入っているので破損しているということではない」として、この時点ではまだ楽観的な見通しを述べている。事故発生後数日のあいだ NHK 総合で「原子力の専門家」としてコメントをしたのは関村氏だけだった)

- ・NHK で死亡が確認された人の名前が放送され始める

【3 時】

3:12 茨城、千葉に緊急地震速報

3:59 長野県北部で震度 6 強の地震発生

【4 時】

4:32 関東、東北、伊豆諸島、新潟、北陸、甲信、静岡に緊急地震速報

- ・長野県北部で発生した地震についての解説、長野県と新潟県のスタジオからもニュースが入り始める

【5 時】

- ・始発電車の時間、首都圏の駅からの中継
- ・陸前高田市、仙台市若林区、南相馬市から中継開始
- ・菅首相が被災地の視察を行うと中継が入る

【6 時】

- ・夜明けを迎えた 6 時以降、各局は被災地の上空からの映像取材を開始
- ・福島県相馬市、南相馬市、宮城県気仙沼市の上空から中継開始、広範囲で壊滅的被害であると伝えられる
- ・1F 1 号機の中央制御室で放射線の値が上昇。避難指示の範囲が 10 km に拡大される
- ・茨城県東海村の火災のヘリ中継開始

(6 時すぎ、菅首相の現地視察出発のニュースのあとで状況は急変する。電源が確保できずベントの目処がたたない。1 号機の中央制御室で放射線の値が上昇し、避難指示の範囲が半径 10 km に拡大された.....次々と情報が入り、6:53 には「1 号機からは微量ながら放射線が漏れ始めているとみられる」という保安院の見解が報じられた)

【7 時】

- ・宮城県南三陸町、亶理町、岩沼市の上空から孤立した住民が救助を求める様子が中継
- ・宮城県南三陸町の上空から校庭に「SOS」と書かれた文字を映し出す
- ・宮城県気仙沼市で 1,700 人から 1,800 人孤立状態、宮城県女川町壊滅状態、宮城県亶理町で 9,000 人が孤立など甚大な被害の情報が続々と伝えられる
- ・フジテレビが宮城県亶理町の阿武隈川の橋の上から救助を求めて手を振る人の姿を映し出す

・テレビ朝日が宮城県岩沼市の南浜中央病院屋上に書かれた「HELP」「食料」という文字を映し出す

【8 時】

- ・宮城県山元町の上空、仙台市若林区から自衛隊による救助の様子が中継
- ・長野県栄村の上空からヘリ中継開始

【9 時】

- ・仙台市宮城野区、福島県南相馬市からの中継で避難所で食料や水など物資が不足と情報が入り始める
- ・茨城県で鹿行大橋が崩落し、ヘリ中継が行われる

9:22 1号機でようやくベントの作業が始まったと報道（しかし、作業は難航していた）

【10 時】

・福島県南相馬市、岩手県陸前高田市など壊滅状態と報じられていた地域内の被害状況をレポートした VTR が入り始める

【11 時】

- ・宮城県警、行方不明相談電話を開設
- ・岩手県と福島県で死亡が確認された人の名前が表示され読み上げられ始める
- ・TBS が避難所内から中継を行い必要な物資についてインタビュー

【12 時】

- ・岩手県住田町、岩手県大槌町と連絡が取れないとの情報
- ・自衛隊派遣 5 万人に増員するとの情報
- ・福島第一原発、燃料棒が最大 90cm 露出との情報

12:12 9:00 過ぎから始まったベント作業が難航し、原子炉内では水位が下がって 11:20 には燃料棒が最大 90 cm 露出と報道

【13 時】

- ・南相馬市、陸前高田市でヘリで救助が行われている様子を中継

【14 時】

14:16 1F 1号機周辺でセシウムが検出される。「炉心の核燃料の一部が溶け出た」可能性があるとの報道

【15 時】

- ・東電が「計画停電」を実施する可能性が伝えられる
- ・1F でベント作業が行われ、効果があったと伝えられる
- ・日本テレビがヘリでの救助の様子を約 30 分継続して中継

15:24 保安院の会見> 格納容器の圧力が急激に下がってベントがひとまず成功したことを報道

(15 :36 1F 1号機で水素爆発発生)

【16 時】

- ・1F で「爆発音」「白い煙」「けが人」の一報
- ・日本テレビで福島中央テレビがとらえた「爆発の瞬間」映像を放送

16:52 「午後 4 時頃、1 号機のあたりで爆発音が聞こえたあと煙のようなものが見えた」という目撃情報が伝えられる

(爆発音のニュースは、各局でもほぼ同じ時間帯に報じられた。その中で日本テレビは、系列局の福島中央テレビがとらえた 15:36 の爆発の瞬間の映像を放送した。この映像は世界のメディアを駆けめぐった)

【17 時】

上空から撮影した爆発後の1号機建屋の映像を、爆発前のものと比較しながら解説。山崎記者は早い段階で「水素爆発」の可能性に言及していたが、詳細は不明であるとして、「もし原子炉が爆発したとすると、放射性物質が大量に放出されている可能性があるので、外出せずに窓や換気扇を閉めて欲しい」といった注意の呼びかけを繰り返し行った。原発周辺の現在の風向きや今後の予想も報じられた。しかし、保安院等からの具体的な情報は一向に入らない。こうした発表の遅れに対して山崎記者が「こういう重大な事象につながる情報を我々も入手できていなかった。原子力安全・保安院と東京電力の情報の出し方が非常に重要な局面に来ている。これは徹底的に糾弾されるべきだし、しっかりと必要な情報を住民やメディアに提供していただきたい」と厳しく指摘する場面もあった。慎重な言い回しの関村教授も「いま、我々は最悪の事態を想定して対処をしていかなくてはならない。そういう事態になっている可能性が十分ある」と踏み込んでいる

17:47 爆発から約2時間後の枝野官房長官の会見> 「何らかの爆発的事象があった。原子炉とは確認されていない」。その直後の保安院の会見「映像を見る限りの情報しかない」

【19時】

19:37 今回の事故が国内初の炉心溶融事故であり、米スリーマイル島事故と同じ事態が起きていると報道

【20時】

20:41 枝野官房長官会見> 事故の詳細発表。水素が原因の爆発であり、原子炉を囲む格納容器までは破損していない。この時点で、爆発発生からすでに5時間が経過していた

在京テレビ局全てが報道特番を続けるこの状態は、12日夜11:55まで続く

報道関連 NHK.....

福島放送局長殿
仙台放送局長殿
水戸放送局長殿
本部関係各部局長殿

3月21日
報道局

放射線量についての考え方

福島第一原子力発電所事故の取材、お疲れ様です。放射線量の値について福島局で不安が広がっていることにつきまして、報道局の考え方を以下に示します。

今回の事故は、原子力災害対策特別措置法に基づいて、総理大臣が原子力緊急事態を宣言し、国が主導的に対応する案件となっています。政府は、周辺の放射線量の積算値などを考慮に入れながら判断して対策を取っています。

今のところ、原発から半径20キロに出している避難指示と、20キロから30キロまでに出している屋内退避の指示を変更する予定はありません。我々の取材も政府の指示に従い行うことが原則です。

NHKの原子力災害取材マニュアルは、原子力施設の周辺での取材を前提にしたもので、60キロ以上離れた福島市のように遠く離れた場所で行われる取材を対象としていません。取材マニュアルでポケット線量計のアラームを0.5ミリシーベルトに設定するとしているのも、原発に近づいた際、0.5ミリシーベルトで即座に引き返せば、国が採用している1ミリシーベルト以内に被爆を抑えられるということを前提にしています。従って福島市内などの取材で積算される放射線の値に神経質になることなく、一つの参考データと考え、取材を続けるかどうかは政府の指示に則して判断することにします。

一般の人の年間被曝量を 1 ミリシーベルト以下に抑えるというルールは、
ICRP = 国際放射線防護委員会が勧告した数値で、「放射線は浴びないのに越したことはない」という極めて保守的な考えに基づいた値です。
国内で自然に浴びる放射線の量は、1~2 ミリシーベルトと暮らしている地域によって 1 ミリのばらつき幅があります。
放射線医療の国際的な考え方として、100 ミリシーベルトまでは、ほとんど健康被害は見られないというのが一般的です。

報道関連 NHK.....

5/15 原発震災発生から 2 ヶ月後に、木村真三、岡野眞治らの放射能測定活動を追った (ETV 特集)「ネットワークでつくる放射線地図 ~福島原発事故から 2 ヶ月~」

6/05 (ETV 特集)「続報 ネットワークでつくる放射能汚染地図」

1F から 1.7km 離れた地点で採取した土壌サンプルからプルトニウム検出

プルトニウム 238 とプルトニウム 239・240 の比率 0.059 (通常値 0.03 の 2 倍) から事故由来である可能性が高い

コア・コンクリート反応.....メルトダウンした核燃料が圧力容器底部に溜まり、次に貫通(メルトスルー)、格納容器に流れ落ち、底部にあるコンクリートに接触することで化学反応し、エアロゾル状の煙が発生。プルトニウムは、その煙に運ばれて、格納容器の破損箇所を通過して外に出た。プルトニウムを含むエアロゾルは、いつ、どの原子炉から飛び出したか。3月16日や21日などに原発から立ち上った白煙が怪しいと